

セポ ・ レポ ・ ハイスクール Cepo Repo ・ HighSchool

第8号 (2021年2月 発信)

地域連携教育推進室員が県立高校等に赴き、各学校の地域連携教育の取組をレポートします。このレポートのタイトルである「セポ・レポ・ハイスクール」の「セポ」は「地域連携教育推進室」を表す「Community Education Promotion Office」の、「レポ」は「Report」の略称です。

県立山口高等学校の取組



学校運営協議会の様子



CS活動推進員 山本貴司さん



熟議結果の共有の様子

県立山口高等学校では、10月28日(水)に本校で、**注目!** 11月10日(火)に徳佐分校で、第2回学校運営協議会を分散開催し、それぞれ**生徒を交えた熟議**を行いました。第7号でも御紹介しましたが、熟議とは、課題解決をめざし、関係者がみな**当時者意識**をもって、しっかりと協議をすることです。

当日の熟議のファシリテーターは山口高校の**CS活動推進員 山本貴司さん**が務めました。山本さんは、公立高等学校PTA連合会(以下、「高P連」)の事務局顧問を兼務されており、**高P連主催の高校生熟議でファシリテートしてきた経験**を生かし、本校会場では「『輝く未来の創造に挑む学校』の実現に向けて」というテーマで、分校会場では「徳佐分校の特色について」というテーマで、それぞれ教職員・生徒を交えたグループでの熟議をファシリテートしました。

全日制のグループからは、「生徒や教職員が、**めざす学校像や生徒像**についてより理解する必要がある。」「地域と山高生が関わる機会、行事を増やし、**地域に出る実践的な教育活動の場**を作りたい。」などといった提案や考えが、定時制のグループからは、「安心、集中して授業に取り組める環境を作るため、スマートフォンの取り扱いなど**具体的なルール**を設定してはどうか。」、通信制のグループからは、「通信制のことをよく知らない人たちに対して**情報発信**する必要がある。駅の待合室や通路を利用した学校紹介のコーナーを設けてはどうか。」、分校のグループからは、「徳佐分校の良さは、豊かな環境で落ち着いて勉強ができ、少人数のため全員に役割があり、成長につながっている。」「**多様な人との交流の機会が少ないので地域との交流学習や卒業生によるキャリアトーク**を行ってはどうか。」などといった様々なアイデアや意見が出されました。熟議後、学校運営協議会の野崎浩二会長は、「**生徒の様々な意見を聴くことができて大変良かった**。第3回の学校運営協議会に向け、**生徒の意見を踏まえた学校支援**を考えていきたい。」と感想をおっしゃっていました。

注目!

「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、学校運営協議会を接点に地域そして社会とつながっていく、山口県の公立高校ならではの「テーマ型コミュニティ・スクール」の今後が期待されます。

生徒も参画する学校運営協議会

ポイント！



生徒を交えた熟議の様子①



生徒を交えた熟議の様子②



生徒を交えた熟議の様子③

熟議に参加した生徒たちの感想

注目！

私たちが普段思っていることを伝えることができました。これまで地域の方と話す機会があまりなかったので、自分たちの知らないところで多くの大人が関わってくれていることに大変驚きました。このことから、自分たちから関わろうとしなければ、見えないことがたくさんあるのだということを強く感じました。(全日制の生徒)



学校運営協議会の委員さんからの提案を受けて、定時制の生徒会として新しいことにチャレンジしたいと思いました。私たち生徒会役員だけでは出なかったアイデアをいただくことができました。(定時制の生徒)



委員の方の話を伺って、これから通信制を選ぼうと考えている人に、全日制や定時制とは違う通信制の良さをアピールしていきたいと思いました。また、熟議の中で地域の方の意見を聞き、自分の考えがいかにか狭いかを知り、もっと広い視野をもてるようになりたいと思いました。(通信制の生徒)



地域の方や先生方の中に入って、自分の意見を伝えることは、とても緊張しましたが、徳佐分校の良さを改めて知ることができました。もっと徳佐分校の良さを地域や中学校にアピールをして、徳佐分校にたくさん入学してもらいたかったです。(分校の生徒)



現在、分校や複数の学科、課程を併置する学校では、各校が様々な工夫をして学校運営協議会を開催しています。第1回と第3回で合同開催し、第2回では分散開催をする学校や、年度ごとに会場を変えそれぞれの生徒の様子を委員に見ていただくといった開催方法をとる学校もあります。また、今回の山口高校のように複数の課程を併置する学校では、めざす学校像の実現に向けて、それぞれの課程で「熟議」を行い、話し合った意見を全員で共有することで、コミュニティ・スクールとしての一体感を生み出すといった手法が考えられます。

ポイント！

また、コミュニティ・スクールが学校運営と教育活動の充実に生かされるよう、学校運営協議会において、生徒が学校生活や学習活動についてのプレゼンテーションをしたり、熟議に参加したりする、生徒も参画する学校運営協議会を実施する学校が増えてきています。こうした学校運営協議会では、委員と生徒・教職員とが、互いの意見を交わすことで、生徒を含めた参加者全員の当事者意識が高まるとともに、生徒の主体性が育まれることが期待されます。さらに、地域の大人が学校のために真剣に考える姿を目にし、山口県で頑張る大人の考えを耳にすることで、生徒が自己の在り方生き方を考える機会にもなっているようです。

県立山口高等学校の情報はこちらから→ <http://www.yamaguchi-h.ysn21.jp>

